



ボランティア通信 2019. 2 Vol. 226

なかま

発行 交野市ボランティアグループ連絡会
(交野市ボランティアセンター内)

V連絡会 E-mail vltr94@eto.eonet.ne.jp

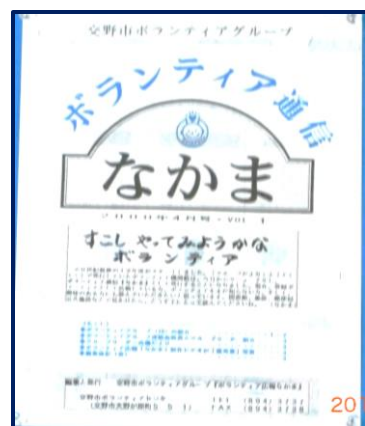
Vセンター E-mail katabora1994@katano-shakyo.com

なかま創刊から28年の歩み

なかま発行の歩み

- 1991(H3)年11月 「なかま」創刊号発行、手書きB4版2頁
- 1994(H6)年4月 ボランティア協会からボランティアグループ連絡会に改称
- 1995(H7)年4月 第12号では阪神淡路大震災で被災地における救援活動の特集
- 1995(H7)年9月 「なかま」から「グループだより」を分離する。隔月発行 (2000年2月まで通巻38号)
- 1996(H8)年4月 なかま16号で発展的解消
- 1997(H9)年7月 ボランティア通信「てくてく」を「グループだより」の姉妹版として隔月発行(通巻17号)
- 2000(H12)4月 「グループだより・てくてく」をリニューアル、機関紙名「なかま」を復活させ「ボランティア通信なかま」誕生
- 2001(H13)5月 「なかま」表紙を変更(現在の「なかま」の原型)

※「なかま」発行号数は2000年4月から通巻226号



2000.4 ~ 2001.4 まで
通巻13巻を発行



1997.7 ~ 2000.3
隔月発行、通巻17号



1995.9 ~ 2000.2
通巻38号発行

ボランティアを

紹介してほしい人

ボランティア活動を

はじめたい人

ボランティアセンター

にお問い合わせください

(☎894-3737)



1991年11月 ~1996.4 通巻12号まで発行
なかま創刊号1面(写真上)、福永松栄会長が機関紙発行にあたって、ボランティアの心構えを寄稿。その他に障がい児の親子キャンプの様子などの記事が掲載された。(手書きのB4版2頁)

ボランティア協会が1977年3月に発足、14年後に機関紙が発行された。いろんな変遷を辿りながら、また先人たちの苦労があって、「ボランティア通信なかま」から通巻で226号を数えるに至りました。その一端を紹介します。

ボランティア インタビュー70 中野セツ子さん(虹の会)



ボランティア活動を始めたきっかけは

30代の頃、人前で話すのが苦手な自分でも、人の役に立てるボランティアをできないかと、点字・点訳の通信講座を受講しました。ここで学んだことを活かそうと活動の場を探していたところ交野市の広報で点訳グループの存在を知りました。思い切って電話をかけると、虹の会の代表の方が「根気、根気です！根気さえあれば大丈夫」と誘っていたので入会しました。

いつまでも教えられ

点訳も機器の発展で点字器から点字タイプライター、パソコン点訳へと変化してきましたが、点訳のベースとなる下調べは必要不可欠で、辞書や参考書を繰ることは必須です。お陰で

知らなかったことや、新しい発見があった楽しんでいます。歳を重ねてきましたので、頭の体操にも一役といったところです。

写真撮影と楽器で気分転換

身近なところから遠くまで、デジカメを持って歩きます。道端の草花や、自然の風景に出会うのが楽しみです。その時々自分の心の模様を写し撮っているのかもしれない。

また、月二回、弦楽器のヘルマンハーブの稽古でアンサンブルを楽しんでいます。好きな曲を楽器用に書き替えて弾く独り遊びも楽しいものです。

自分の居場所は「虹の会」

ボランティアグループ連絡会の広報紙「なかま」のお手伝いをしているくらいで、「虹の会」一筋のようなものです。

会のみなさんはとてもやさしく、家族のような居心地の良さに感謝しています。点字とのかかわりをこれからも細く長く続けられたらと思っています。

リーダー会議(1月22日)

☆会長挨拶

ボランティアグループ連絡会・加入グループの変遷について

一九七七(昭和52)年3月にボランティア協会が発足。ボランティアグループ連絡会に改称した一九九四(平成6)年4月を節目にボランティア活動のグループ化が進み、現在に至るまでの加入グループ、退会グループの流れと連絡会の主要な活動について解説

☆連絡会より

・三行事の流れと取り組みについて
各グループの意見のとりまとめを2月15日(金)までに提出

☆Vセンターから

・グループ活動記録について
年度末にさしかかっているので早めの提出を依頼

・平成31年度登録ボランティアの活動継続の確認について

・地域福祉振興助成金について
社協助成金会計について

・会計研修を2月26日(火)に実施
3月中に次年度助成金予算を提出

☆各グループから(省略)

※リーダー会議終了後、消防訓練を実施しました。

編集
後記

わが家の
お味噌汁

最近、具沢山のお味噌汁が流行っているらしいと聞きました。

お味噌汁といえば、わが家でも子どもが小さい頃は、野菜やお豆腐など具をたくさん入れて、それだけでもいろいろな栄養が採れるようにと作っていました。最近ではあっさりしたもののが好まれるようで、あまり具を入れてくれないなど言われてしまっています。

お味噌汁を具沢山にすれば、品数が多少減っても大丈夫かと、こちらの打算もあったのですが目論見は大外れです。でも、お味噌汁には様々な健康効果もあるのか・・・。

その中にはアンチエイジングの言葉も！ 流行りとは逆行していますが、せめてお出汁をしつかりとって、当分はあっさりお味噌汁で寒い冬を乗り切ろうと思います。(もこ)

2月のボランティアサロン

手話「さつき」の活動紹介

ボランティアに関して、知る、学ぶ、交流する会を毎月ひらいています。

今月は、手話を学びながら聴覚障がい者についての学習、交流をおこなっているボランティアグループの手話「さつき」の活動について紹介します。

と き	2月15日(金)午後2時～3時30分
ところ	ボランティアセンター(2階)
対 象	市内と周辺在住、在勤、在学の方
参加費	無料
申込み	ボランティアセンター (072)894-3737



ボランティアセンター2階に展示

活動紹介パネルが一新されました

昨年6月の大阪北部地震でボランティアセンター2階に展示していましたが、各グループの活動紹介パネルがすべて落下し、パネル展示を中断していましたが、仮に落下しても安全な素材のパネル(発泡スチロール製)を見つけ、新たに各グループに活動紹介パネルを作成していただきました。ぜひご覧になってください。

Vセンター1階印刷室に
文房具を設置 ご利用ください

1月から連絡会用として簡単な文房具を設置しましたので、ご利用ください



ボランティア登録の確認が迫っています

なにかま1月号でお知らせしました、来年度のボランティア登録継続意思の確認について、手続きがまだお済みでない方はお急ぎください。
個人登録の方はボランティアセンターへ直接ご連絡ください。2月15日(金)が締切日です。
ボランティアグループに所属している方はグループリーダーへご連絡ください。

ボランティア活動保険について、ボランティアセンターへの依頼に対し、ボランティア活動をする確認された時点で保険加入の手続きを行ないます。活動を始められる際はボランティアセンターへご連絡ください。また依頼書と活動報告を提出していただく必要があります。詳細はボランティアセンターへお問い合わせください。

ベルマークの収集にご協力を！



「ほほえみ」のグループでは昨年からベルマークを集めています。ボラセン玄関入ってすぐ右の棚に回収ボックスを置いています。皆様の協力よろしくお願いいたします。

春を呼ぶ
みんなのコンサート

「29th 春を呼ぶみんなのコンサート」が河北7市の呼びかけで「障がいのある仲間たちにひとときの楽しみを」そんな気持ちを持った福祉施設・事業所や支援学校の人たちが、この1年間かけて準備をしてきたコンサートが開催されます。

交野市からくらしワークセンターのみなさんが出演されます。

とき 平成31年2月23日(土)12時～15時
ところ 門真市市民文化会館ルミエールホール
(京阪電車古川橋駅下車、東へ徒歩5分)

※みなさんのお越しをお待ちしています。
障がい者・施設支援「ふれんず」

嬉しい
年賀状

少々時期外れの話題で恐縮ですが、元旦の楽しみは、数十枚の年賀状を一枚一枚見ていくことです。この歳になると中に、年賀状は今年で終わりたいというのがある。しかしそんな中に、93歳になられる小学校と中学3年の担任の二人の先生からの手描きの賀状に頭が下がります。そして、とてもうれしく思ったある方の一枚は、「今年傘寿を迎え、年賀状を遠慮しようと思っていました、新年早々沢山な方から賀状をいただいで今や100歳越えの人生設計からこんな弱気では『だめ』と猛省。健康状態が続く限り、年賀のご挨拶を継続する覚悟いたしました」とありました。

人にはそれぞれの考えがありますが、私は年賀状の習慣は素晴らしいものと思っています。私も体力が続く限り、続けて行こうと思いました。年賀状をいただくのはとても嬉しいからです。

K・K

手に汗握るダブル空中ブランコショー
～木下大サーカスうめきた公演～

何十年ぶりだろうか、サーカス見物にうめきたグランフロント西の特設会場に向いた。希少なホワイトライオンの猛獣ショー、地上13mの高さでのダブル空中ブランコショー、3台乗りオートバイショーなどさまざまな迫力あるショーを楽しむことができた。



調教師とホワイトライオンの見事なチームワーク

みんなのひろば

大阪に興味のある方に
どこから読んでもかまわない 何処でも止められる 肩の凝らない新刊を紹介します

「地図と地形で楽しむ 大阪淀川歴史散歩」

編者 都市研究会 発行 (株)洋泉社

大阪の歴史は、淀川の歴史だと言われるほど、その関係は深い。大阪市の大部分がかつては海や湿地帯だった。その地形を作りかえたのが、ほかならぬ淀川の流れである。

そんな場所に大都市大阪が生まれた背景や、木津川・桂川・宇治川との合流も大きな意味合いを持つ淀川。大阪再発見のおもしろさがある。

「JR大阪環状線沿線の不思議と謎」

著者 小林克己 発行 (株)実業之日本社

JR大阪環状線 19 駅の案内から始まる。まず大阪駅の発車メロディをご存じだろうか、やしきたかじん「やっぱ好きやねん」である。ドボルザーク「交響曲第9番新世界より」とくれば、新世界が広がる「新今宮駅」。沿線スポットやエピソード、地名のミステリー、沿線文化など満載である。

(TM記)

ヘレンケラーの
愛した日本

没後五〇年の特別番組、先日ヘレンケラーと日本の交流や影響を受けた人との交流を描いた番組を見ました。ヘレンケラーは三度日本に来日し、合計滞在日数242日。日本各地を訪れ、出会ったひとり一人に鮮烈な印象を残しました。一歳の頃原因不明の高熱に見舞われ、見えない・聞こえない・話せないという苦を背負いますが、家庭教師のアン・サリバンと出会い、すべての物に名前があることを知るのです。

大阪市鶴見区(放出駅)にある社会福祉法人・日本ライトハウス(視覚障害者更生施設)の創業者岩橋武夫(障害者福祉に尽力)とヘレンケラーとの二〇年間にわたる交流が丁寧に描かれ、全国の盲学校との交流で、出会った人の人生に大きな影響を与えました。「三日間でみたいもの」の朗読を聞いて、今の世に生を受け生きている意味を考え、改めて彼女の自伝を読んでみようと思います。

(リリー)